

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	JENT2515 JNNT1515
2. 授業担当教員	井戸川 敦			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰ→図画工作Ⅱの順で履修するのが望ましい。			
7. 講義概要	図画工作Ⅰを踏まえ、より実践的な題材例に取り組むことを通して、幼児の造形の特徴および幼児教育における造形活動の役割を理解していくとともに、具体的な造形活動の展開について構想・実践することを通して、保育の実践力を高めていく。併せて、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育成する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特色について理解できる。 2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができる。 3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができる。 4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたらかせることができる。 5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できるようにする。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の実習において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 【参考書】 梅澤実『保育・教育のための実践事例で理解する「表現」』創成社 (授業の進行に伴い適宜資料として提示する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。) 【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳・幼児期の造形および表現による「遊び」と「学び」の特色について理解できたか。 2. 乳・幼児の各発達段階における身体性・造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができたか。 3. 素材や用具・道具の理解・技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想することができたか。 4. 乳・幼児の感性や創造性を受け止められる保育者になれるよう、自身の感覚をはたらかせることができたか。 5. 乳・幼児の感性や創造性をひらく造形活動の展開を構想できたか。 ○評定の方法 ●授業への取り組み・態度 30% : 欠席－2%、遅刻－1%の減点法で評価する。 ●ポートフォリオ 40% : 授業と学習の記録、学習のふり返り、自己評価が毎時間記載されているか。 ●レポート 30% : 設題に対し、自分のことばで考えをまとめることができているか。			
12. 受講生へのメッセージ	現代の情報化が進化した社会環境において子どもの実体験不足が叫ばれています。幼少期における多様な素材体験や造形体験が子どもの豊かな人間的成長を促してくれます。この授業では、様々な造形体験を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざすとともに、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育みます。			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (メールなどで事前にご連絡ください)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造・発想について (講義+演習)		事前学習	教科書を一通り確認しておく。 また、図画工作や美術の授業を振り返り、印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が教員になった際、子どもたちが豊かに制作できる環境設定を考える。
			事後学習	自身のこれまでの制作活動を振り返り、考えたこと感じたことをまとめる。
第2回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて		事前学習	これまでの描画経験を振り返り、描画の基本について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。
			事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備したモチーフを描いてみる。
第3回	◇ モダンテクニックによる表現 復習 (デカルコマニー・糸引き絵・スパッタリング・ドリッピング)		事前学習	また、絵の具を用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品制作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。
			事後学習	デカルコマニー・糸引き絵・スパッタリング・ドリッピングによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を使用し作品を制作する。

第4回	◇ モダンテクニックによる表現 (クレヨンスクラッチ・シャボン写し)	事前学習	作品制作に向けて、抽象的な形態や様子に着目し自由に構想を練る。またクレヨンを用いた制作活動の経験を振り返る。
		事後学習	クレヨンスクラッチ・シャボン写しによる制作活動を振り返り、素材の材質や特徴について考える。また上記の技法を使用し作品を制作する。
第5回	◇ ポップアップカードによる表現 I (山々カード・二本足カード)	事前学習	ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、制作に使用できそうなイメージを収集する。
		事後学習	山々カード・二本足カードによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第6回	◇ ポップアップカードによる表現 II (ボックスカード) (講義+演習)	事前学習	教科書 第3章④pp. 57-59を読む。 また、ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、制作に使用できそうなイメージを収集する。また実際の現場での使用アイデアの構想を練る。
		事後学習	ポップアップカードについて復習する。様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、出来上がりのイメージとともに記録する。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第7回	◇ 工作活動(立体) I 題材の設定、制作の準備・構想と制作	事前学習	造形表現に用いられる素材の種類を挙げ、それぞれの素材に対するイメージをまとめる。キーホルダー制作に向けて、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	実際に制作する造形物についての制作方法やデザイン案をまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第8回	◇ 工作活動(立体) II 素材についての研究 (講義+演習)	事前学習	教科書 第6章①pp. 127-140を読む。 また、空き容器など、身近にある素材に目を向けて、造形材料の可能性について考える。身近な材料を利用した作品制作に向けて、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	廃材となる素材を利用した制作活動を振り返る。他の学生が利用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第9回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 I 色・形・触感について・自己課題の制作	事前学習	それぞれの制作計画に従って、必要となる材料を収集する。まとめた構想についてアイデアスケッチを描く。
		事後学習	制作活動を振り返り、自身の作品における色や形、触感といった造形要素について考える。作品を、各自スケッチブックにまとめる。
第10回	◇ 造形に関わる素材・道具・表現についての研究 II 自己課題の制作・作品の相互鑑賞 (講義+演習)	事前学習	教科書 第6章②pp. 141-154を読む。 また、自己課題について、仕上げていくイメージを持つ。作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行って見て、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことを各自のノートに記す。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第11回	◇ 版画による制作活動 I 様々な素材を利用した版画表現の研究	事前学習	アイデアデッサンをもとに、表現に適した技法について考え、制作に必要な材料を用意する。
		事後学習	これまでの版画による制作活動を振り返り、自己評価をまとめる。またシルクスクリーンなど、関連する様々な版画技法について調べる。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第12回	◇ 版画による制作活動 II 様々な素材を利用した版画表現の研究 (講義+演習)	事前学習	教科書 第6章③pp. 155-165を読む。 また、任意の素材を使用し版画を制作する際、どのような工夫ができるかを考えアイデアを書き出す。また実際の現場での版画表現の利用法・活用法を考える。
		事後学習	これまでの版画の制作活動を振り返り、実際に制作する作品以外にどのようなテーマで制作できるかを考え、アイデアを書き留める。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第13回	◇ 素材研究 I 素材研究を通じた任意の衣装の制作と発表	事前学習	制作・発表に向けて、スケッチブックやノートにアイデアをまとめ、グループ内での意見交換に積極的に参加する。任意の衣装制作に関する構想を練り、各自資料を収集する。
		事後学習	第15回の発表について構想をまとめる。また鑑賞者の視点において、これまでの様々な発表において印象に残ったものを取り上げ、考えたこと・感じたことをノートに

			記す。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第14回	◇ オンライン美術館 Google Arts & Culture を使用した鑑賞の授業 内容の研究	事前学習	中学校・高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	Google Arts & Culture を使用し、興味のある作家の作品について考えたこと感じたことをまとめる。また、公務員試験を想定した学習を進める。
第15回	◇ 素材研究 II 素材研究を通じた任意の衣装の制作と発表	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品を簡潔に伝えるためのキャッチフレーズを考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、自身の作品の良い特徴を認識する。図画工作IIの制作活動を振り返り、自身の作品やノートをまとめる。